

「変視症」

視野の中心部分が、ゆがんだり、うす暗くまたは真っ暗になったり、実際より物が小さくまたは大きくみえたりする症状を変視症といいます。

どうして変視症が起きているのですか？

加齢や全身疾患、主に糖尿病や高血圧により、眼の神経（網膜）の中心部分（黄斑）が腫れたり、拳上されたり、肥厚するなど眼底の中心に異常が起きた時に発症します。

どのような病気があるのですか？

代表的な疾患は、黄斑浮腫、黄斑前膜、黄斑円孔および黄斑変性です。黄斑浮腫は、主に糖尿病や高血圧により網膜の傷んだ血管からあふれ出た血漿あるいは出血により黄斑が腫れる疾患です。黄斑前膜は、加齢に伴い黄斑表面に形成されたうすい透明な膜が徐々に収縮することで黄斑も一緒に変形

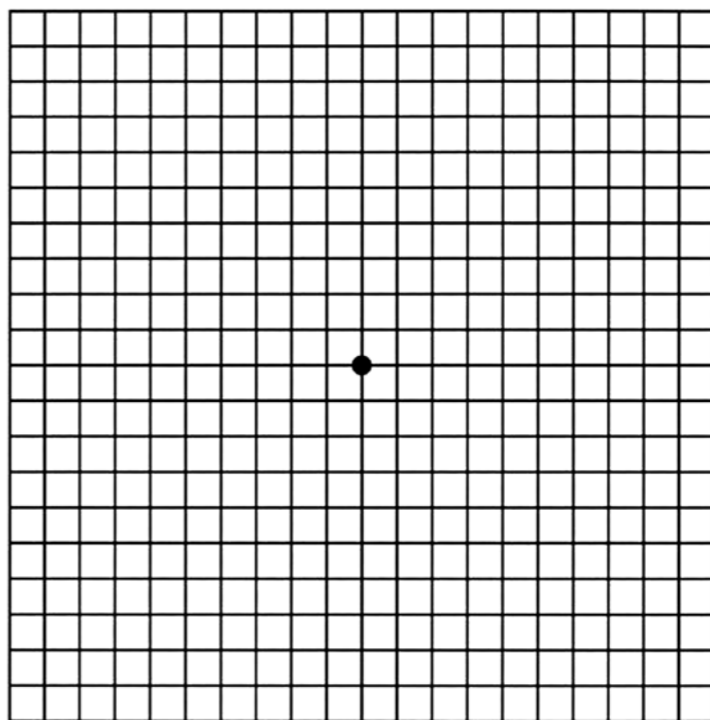
する疾患です。黄斑円孔は、硝子体と言う眼球内の透明なゼリーの収縮に伴い中心窩（黄斑の中心）に小さな穴が開く疾患です。黄斑変性は加齢性、近視性、炎症性および遺伝性などその原因は様々ですが、多くみられるのは加齢黄斑変性です。加齢黄斑変性は、加齢に伴い発生した脈絡膜（眼球壁を構成する血管組織）の新生血管により黄斑の拳上、肥厚および浮腫などを来す疾患です。黄斑前膜と黄斑円孔は60歳以上の女性、加齢黄斑変性は50歳以上の男性にそれぞれ多くみられます。

予防のために何をすればいいのですか？

黄斑浮腫では当然ですが糖尿病および高血圧の十分なコントロールです。これらの既往のない人は一度内科での検査をお勧めします。加齢黄斑変性では禁煙のほか、紫外線、青色光線および動脈硬化の対策が大切です。黄斑前膜と黄斑円孔の予防法はありません。

変視症を治す薬はありますか？

黄斑浮腫では、ステロイド剤あ



変視チェックシート

片眼ずつ検査します。一眼をつぶり、チェックシートを30cm離して、もう片方の眼で中心の黒点をまっすぐ見ます。線がゆがんだり、暗い部分がある場合は変視症の可能性があります。

その他の治療方法はありますか？

るいは血管内皮増殖因子阻害剤（抗VEGF抗体）を眼に注射します。加齢黄斑変性では、抗VEGF抗体注射が第一選択の治療となっています。ただし、その治療効果は黄斑浮腫では3〜4割ほどしか改善しないこと、加齢黄斑変性では現状の視機能を維持させることを目的としており視力回復は困難とされています。従って、早期に病気を発見して治療を開始することが大事です。残念ながら、黄斑前膜と黄斑円孔に対する薬物治療は現在ありません。

薬物治療が奏功しない黄斑浮腫と黄斑前膜および黄斑円孔では手術を施行します。病態により異なりますが、手術は30〜40分ほど、入院は5〜9日間ほどです。ただし、手術後の見え方は原疾患および手術までの病状経過により異なります。加齢黄斑変性はPDTというレーザー治療を行うことがあります。

最後に

黄斑部が一度障害されると、そ

の後積極的に治療を施しても変視はもちろん、視力もなかなか回復しません。このため、日常において変視症の自己チェック（線の色が濃い方眼紙などを30cm離して片眼ずつでみる）を時々行うことをお勧めします。そして、もし変視症を自覚したら、早めに眼科を一度受診して下さい。

今月の先生



岐阜市民病院 眼科
川上秀昭 先生

- 専門分野
網膜硝子体
白内障
- 役職
眼科部長
- 主な資格、認定
眼科専門医
- 卒業年、主な職歴
平成7年岐阜大学医学部卒
岐阜大学医学部附属病院
高山赤十字病院